

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201629		
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
事業所名	グループホーム カナリアの家		
所在地	〒857-1151 長崎県佐世保市日宇町649-9 (電話) 0956-32-5657		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】(平成20年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤(専任6人,兼務1人),非常勤2人,常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての	2階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 ~ 33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:10年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(8月7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低 77歳	最高 98歳		

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	加瀬クリニック・宮原病院・(医)白十字会介護老人保健施設長寿園・佐世保中央病院・大串歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年を経過した今年、ついにホームの核を見つけられ、入居者・職員が生き生きとした共同生活を営まれている。事前連絡の電話の際、「今年は、大きく変わっています。」と管理者から告げられたその声には自信と活力が漲っていた。現在【寄り添う介護】に焦点をあて、言葉かけを方言の『よか』を使った依頼言葉に変えられ、【促しはするけど決定は入居者本人である】ことを徹底されている。その結果、入居者の苛立ちが消え、ホーム全体が和んだ空気に包まれ、入居者のコミュニティ形成で職員も余裕を持った観察でスローな介護に努められている。今後、核を中心に年輪を刻まれることが期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の期待される取り組みについての具体的な改善計画シートの作成はされておらず、取り組みの状況について現状を踏まえた報告をされ、結果を得るまでに至っていないことを示唆された。今回は、管理者自ら『改善計画シートを作成します』と取り組みの意欲を示されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価・外部評価を参考に、職員の代表3人で今回の自己評価票の案を作成し、全職員で内容を検討したものを施設長に報告・提出されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、入居者の状況や行事・活動内容、職員の異動などについて報告し、質疑応答されているが、出席者に偏りが見られる。出席者の殆どが事業所側と家族の構成で開催されており、議題にも困窮されている。以前、救命救急講習会を開催された時に、地域住民の参加を得られているので、今後は、地域のニーズ・関心ごとなども把握した地域密着型としての双方向性の会議運営の取り組みが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームとしては、運営に関しての入居者・家族の正直な意見を求められており、表出の場面作りを助案されている。ホームに備え付けのアンケート用紙の見直しも検討されており、入居者・家族の意見などを反映させたホーム運営を目指されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の薬局や美容院、幼稚園などとの交流はあるが、ホームとして更に、地域貢献も踏まえた多岐にわたる交流の取り組みなど模索されている。手始めに、交流のある幼稚園へ「入居者手作りの雑巾の進呈」など具体案も示されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に、入居者一人ひとりの【持てる力の発揮】【自信と生きがい】【家庭の延長】【地域社会との交流】を4本柱にした環境づくりを謳われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(入居者は、長い経験を積み、私たちと同じか、それ以上の自尊心と自立心をお持ちの人生の先輩です)という管理者自身の定義を挙げられ、職員としてのあり方を具体的に箇条書きで示され、全職員の賛同を得られている。当面は、【入居者が穏やかな気持ちと笑顔で過ごせるように、私たちも常に穏やかに笑顔で過ごします】を重点目標に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の薬局や美容院、幼稚園などとの交流はあるが、ホームとして更に、地域貢献も踏まえた多岐にわたる交流の取り組みなど模索されている。手始めに、交流のある幼稚園へ【入居者手作りの雑巾の進呈】など具体案も示されている。	○	良いアイデアが挙がっているので、施設長や全職員、入居者などと話し合いをされ実践に繋げられることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解されており、業務に対する取り組みなどホームの考えを交えて全身で熱弁され、必要なことはメモを取られるなど前向きな姿勢で臨まれている。前回の期待される取り組みの状況についても現状を踏まえた報告をされ、結果を得るまでに至っていないことを示唆された。又、改善計画シートを作成して取り組みに反映させたい意向も述べられた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況、行事・活動内容や職員の異動などについて報告し、質疑応答されているが、出席者に偏りが見られる。出席者の殆どが事業所側と家族の構成で開催されており、議題にも困窮されている。	○	救命救急講習会開催時には地域住民の参加を得られているので、地域のニーズ・関心ごとなども把握した地域密着型としての双方向性の会議運営の取り組みが望まれる。

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場所に難儀されているホームの実態に、最近、市の長寿社会課の担当者から、日宇支所での開催を提案いただいたところである。ホームとしては、これを機に、顔馴染みの関係からのスタートを目指した意気込みを語られた。	○	今回の場所の提供のように、現場や利用者の課題解決のためには、市の理解や支援など必要なことが多い。今後も、更にホームの考え方や実態を市の担当者によく知ってもらい、考え方や実態の共有の下、積極的に市との連携に努められる事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月発行の新聞とは別に、入居者担当職員の手書きの入居者別の便りで、入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態など毎月報告されている。又、家族以外の方の面会があった場合は、家族にそのことを報告し、入居者と家族の情報の共有や入居者の交友関係の継続も支援されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームとしては、運営に関しての入居者・家族の正直な意見を求められており、表出の場面作りを勘案されている。又、ホームに備え付けのアンケート用紙の見直しも検討されており、入居者・家族の意見などを反映させたホーム運営を目指されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員には、入居者一人ひとりの特徴など留意点の情報を伝達し、統一したサービスの提供に努められている。又、1ヶ月間は、日勤の勤務で入居者やホームに慣れてもらうことに重点を置き、その後見習い夜勤など時間をかけて入居者との距離を縮められている。この一年間で異動はなかったが、ユニット間の行事などを通して顔馴染みの関係を構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議のとき、業務などに係わる時期的なことについての注意点など内部研修の一環として取り入れられている。外部研修は、段階に応じて受講されており、受講後は職員会議などで報告され、情報の共有を図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議には内容に適應した職員の参加で対応・交流されている。又、地域密着型として関係職種との連携に繋がる取り組みをされている意識の高い職員もあり、【地域リハビリネットワーク】でボランティア活動と月1回の勉強会で自己研鑽されている。		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者の安心・安定に繋がる取り組みとして、入居間もない時期は、家族になるべく頻りに足を運んでもらい、本人が家族と一緒に職員や他の入居者、ホームの雰囲気馴染んでもらえるよう支援されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>今回の聞き取り・話し合いの間に何回も耳にした言葉が【寄り添う介護】である。職員は促しはするけど決定は本人であることと方言の『よか』を活かして「..してもてよかですか」の言葉かけを徹底されている。その結果、入居者の苛立ちがなくなりコミュニケーションも取りやすく意思の疎通ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者とのコミュニケーションを大事にされており、職員の年齢層を活かした関わり方で入居者の心情に配慮されている。又、入居者の一言や表情などの観察を通じた対応もされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス検討会議の要点シートがあり、検討項目、内容、結論、課題の項目に沿って入居者担当職員を中心に話し合いをされている。又、日々のケース記録も時間帯枠が設けてあり、観察欄に入居者の変化、言動、仕草など記載し、実施欄にプランに沿った記録が青色で記入されており、日々の記録が介護計画にも反映されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3～6ヶ月に1回の見直しをされている。毎日と毎月のケアプランチェック表を入居者別に記入されており、定期的見直しの判断に活用されている。メモ帳の役割も果たしている申し送りノートは、1日見開き1ページにホームの生活記録から入居者の発語、変化、興味を示した事柄まで記入されており、ホームの記録物の基本台帳の役割も果たしており、変化時の随時見直しにも活かされている。</p>		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	眼科、歯科など専門科の受診同行をされている。又、入居者の継続性の支援で踊りの練習参加に伴う送迎支援をされていたこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の要望で入所時にかかりつけ医を母体クリニック医に変更されている。又、当該医師と専門医の連携で必要な検査や適切な医療受診の支援がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2人の方のターミナルケアを経験されており、その都度の話し合いを通して入居者のケアだけでなく家族の心のケアも大事にした取り組みをされており、「人生の終わりを一緒に過ごさせてもらった」としみじみと語られた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	集団の中の個人を尊重した関わり方をされており、入居者一人ひとりの個性が活かせる言葉かけや接し方をされている。又、個人情報に繋がる記録物などは特定の場所で保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホーム生活の流れの中に、入居者一人ひとりの活躍の場面を設けられ、役割と団欒、集いと独り居が自然な形で取り入れられている。		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食卓を囲み、対等の関係で食事に舌鼓を打たれている。さりげない見守りと声かけは入居者の意思を尊重し、時間がかかっても自力摂取を支援されており、皆の視線が集中しないよう団欒の場を設けて環境の配慮もされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に夏場は週3回、冬場は週2回の昼間入浴支援をされている。毎朝の清拭時の皮膚観察を通して、入浴拒否者の清潔・健康管理もされており、やむを得ず強制的な入浴支援をされる場合もあるが、いったん入浴されると「気持ちよか」と入浴を楽しまれることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	かつては職員が入居者間の媒体になって会話が成立していたが、現在は、入居者同士でコミュニティを形成され、職員はそれを見守り、手助けすることに努められている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	街中のホームとして、可能な限りの外出の支援に繋がる取り組みを心がけられている。又、外出とまではいかないが外気に触れることへの支援としてベランダでの寛ぎは廊下の歩行訓練と並行して欠かせない取り組みである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間、玄関への施錠はされていないが、ホームは2階にあるため玄関から階段を利用しての出入りである。2階の階段口には安全のため柵が設けてあり、数個のとめ具と鈴が取り付けられている。この事は家族にも説明し、了解を得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携した避難訓練は、昼間と夜間を想定したシュミレーション訓練である。近くに消防署があることで、地域の消防団との連携、関係構築に不足は感じられているが、近所で悪意にされている方には、緊急時の協力要請に対する了解を得られている。		

グループホーム カナリアの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分摂取量の把握の必要な入居者に関しては、食事以外の飲水量の記入をされている。又、バイタル、食事残量、排泄回数・状態などのチェックシートで、おおよその健康把握もされており、知人の栄養士にメニューのチェックや指導も仰がれている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>レースのカーテンを使って光や鏡映像を遮断されたり、窓を開けて通気をよくしたり、自然に優しい環境づくりを心がけられている。人の気配が途絶えないリビングで1日の殆どを過ごされる入居者が多く、自然な形で集いや独り居を楽しまれている。又、ホームの装飾に入居者手作りの季節的作品も取り入れられている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室からは、入居者一人ひとりの心身の状態や趣味、個性が感じられ、本人にとって安心・安定に繋がる居室環境の整備に心がけられている。</p>		